

くまゆき

2012/10 秋号

40号
通刊77号

<http://www.kumayuken.org/>
✉ info@kumayuken.org

農林水産省登録認定機関・特定非営利活動法人(NPO) 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13 Tel096-223-6771/Fax096-223-6772 振替:01980-7-18438

- ＊ 遺伝子組換えと有機JAS
- ＊ オーガニック食クエスト
【ハートフルキッチン さくら】
- ＊ 各部会の活動報告
- ＊ 事務局からのお知らせ



【絵：小川美弥子】

お菓子から料理まで幅広く使われますが、ただ焼くだけでほくほく！な秋の味覚です。
日本の気候では、花が咲くことはめずらしく、なかなかお目にかかれません。

連載企画！ 種＊花クイズ

Q.右の写真は何の野菜の花
でしょう？

＊正解者の中から抽選で3組（計6名様）に、有機食材を使ったレストラン等で使える約1000円相当のチケットをプレゼントいたします。こたえがわかった方はぜひ応募下さい。

＊応募先やチケット利用可能店など、詳しくは4面へGO！

食べる部分を植えて一
育てますが、実はこ
んな姿です



（農水省HP「サツマイモ『どうやってつくるの？』」より）

身土不二

熊有研 種苗部 佐藤勝六

この季節、八月上旬に種播きした人参の間引き作業に追われています。間引いた人参の若葉が天ぷらとして食卓に出てくるのも我家の十何年も変わらない季節の味です。

実はこの人参、種から育てて（自家採種）もう十年位になります。ここ数年は安定して我家の経営の柱として、また、生きることのヒント、感動を与えてくれました。十二月の収穫時に残したい人参のイメージと生命力を基準に人参を選び取り（母本選抜）、雨よけハウスの一角に百本ほど植え付けます。三月から新しい芽が伸び五月ごろから菊の花のような大輪の花が咲き、七月中旬に種となります。

種とりをすることにより、この人参と、それぞれの時期に会うことになりですが夏の暑い日に真白な花に出会うと ホッ とする一瞬です。さまざまな人の手を経て今、ここにある多様性を持った固定種。その一部に関わることが出来ることは、私にとって宝物であり農民としての誇りでもあるのです。

種とりにはんの少し関わっている私のような素人でも、種の世界には圧倒されることが多いのです。全ての種は次世代に種を残そうとする。いのちをつなごうとする。私たちは、そのいのちをいただいて次世代に何を残そうとしているのでしょうか。

今年も、もうしばらくすると、この人参に会うことができる。今年はどうな顔をしているのだろうか。おもいっきり空あおく、秋の風流れる。

《しんごふじ》…身体は土と離れてはあり得ないという思い。
農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。

いつの間にか身の回りに増えつつある遺伝子組換え食品。今回は、有機JASとの関係も含め、遺伝子組換え食品について考える入り口としての情報をお伝えします。

遺伝子組換えと有機JAS

遺伝子組換え作物の現状

何代にもわたって交配を繰り返す品種改良とは違い、違う品種や他の生物の遺伝子を組み込むことで、新たな特徴を持つ生物を作り出す遺伝子組換え。この技術を使って、たとえば、特定の除草剤に強い品種や殺虫成分を持つ作物などがつくられています。

日本では、遺伝子組換え作物の商業栽培は行われておらず、種子の販売もないとされています。しかし、実は試験栽培は行われており、遺伝子組換えイネの研究も進められています。

ここが心配！



健康への影響については、アレルギーや発がん性など、各国でも議論が続いています。

また、日本では法律で規制されていますが、一度その種子が自然界に放たれれば、在来種との交雑を止めることはできません。熊有研菜の花プロジェクトの調査ではなかったものの、遺伝子組換え菜種の自生は熊本でも見つかったっており、継続して監視する必要があります。

商業栽培が盛んな国では、知らない間に自分の畑に遺伝子組換え作物が混ざってしまった場合は、除去してもらえらるるか逆に特許侵害で訴えら

れ、裁判で闘い続けるか、遺伝子組換え種子と農薬をセットで購入する契約を結ぶかの選択を迫られることになり、農家を苦しめる問題になっています。つまり、特許を持つ多国籍企業により種子が支配され、農家は作りたい作物を栽培することができなくなり、ひいては食べものの全体の支配につながることが危惧されています。

ラベルを見てもわからない!? 表示制度の落とし穴

現在、表示義務が定められている(＝流通が認められている)遺伝子組換え農産物は8種類(※)。該当するものを使用しているときには必ずラベルに表示される…かと思いきや、必ずしもそうではありません。

加工食品では、組み込まれた遺伝子や生成されたタンパク質が分解され検出できない場合には表示義務はなく(なたね油や醤油、てんさい糖など)また、主な原材料にあたらないも

(※)大豆、とうもろこし、ばれいしょ、なたね、綿実、アルファルファ、てん菜、パパイア。さらにそれらを原材料とする加工食品 33 食品群も認められています。



genetically modified organism
から GM 作物、GMO とも呼ばれます

のについては表示を省略できることになっているのです。市販されている油やお菓子などの多くが、遺伝子組換え作物を原料に使用している可能性があります。

また家畜の飼料には表示義務はなく、非遺伝子組換えを選択できない状態です。日本が依存している輸入飼料のほとんどは遺伝子組換えといわれています。

さらに、TPPの懸念事項の一つに、自由貿易の障害として表示義務をなくすよう求められる可能性も指摘されています。

遺伝子組換え原料の使用を禁止している制度は有機JASだけ！



有機JAS規格では、農産物の種苗はもちろん、ほ場に使用する肥料や、加工食品の原材料や食品添加物等においても遺伝子組換え技術を用いたものは使用禁止となっています。

遺伝子組換え原料の使用が禁止されている規格・基準は他になく、つまり有機JAS食品は、原料段階からすべて遺伝子組換えでないことが保証されているのです。

(ただし、肥料・土壌改良剤の一部については、その原料について遺伝子組換えでないものが入手困難な場合には、経過措置として遺伝子組換え原料が認められています)

ハートフルキッチン さくら

— 大地の恵みをいただきます! —

賑やかな通りから、一步店内に入ると、控えめに流れる音楽が気持ちを和ませます。柔らかな照明や落ち着いた店内のスタイルも、私たちが食事を満喫するための下準備のようです。設置されたテレビには、四季折々の野菜の花が映し出され、料理に登場する野菜の畑での様子、そして生産者に思いを馳せる時間を提供してくれます。野菜のみならず、調味料(その材料)に至るまで、一つ一つが無肥料・無農薬で作られた物。そして、卵・牛乳は、動物を自然のままに育てる玉名牧場から届けられているなど、品質へのこだわりが徹底しています。そして、味の表現手段もハイレベルです。たとえば、スープの味付けは、お塩と「心」。シンプルだからこそ、素材の質と工程・技量が問われます。野菜自身の重層的な味わいが印象的でした。その他の料理の味付けもバラエティーに富んでおり、栗尽くしのデザートにも大満足でした。春ともなれば、それこそ「さくら」を愛でながら、花も団子も楽しめるはず!その頃にまた訪れたいなと思いつつ、閉店前のお店を後にしたのでした…(居心地が良くてゆっくりしていたため)。

<広報部・松本恵美 記>



DATA
熊本市東区錦ヶ丘34-13
TEL : 096-365-5363
<http://sakuraweb.jp/>



種苗部

8/28-29 佐賀県鹿島市
種苗交換会・学習会

有機農業の祭典で行っていた種苗交換会だが、今回は祭典と切り離し、別日程で行うことになった。



☆交換後それきりになってしまい、種取りをする人の苦勞が報われないことが多い。各県で作る野菜を振り分けて、責任を持って種取りしていくなど、交換についての改善案も出たが、具体化するまでには至らなかった。

☆交流会では、種を前にして話す時間があり、22人の種取り人それぞれと面識を深めることができ、心に残った。

☆夜の交流会では、自己紹介に続いて、今の生活の様子や、それぞれの取り組みについての説明があった。介護や新規就農の動機についても話が及び、勉強になった。

☆岩崎さんがまとめた「種取りの思い」を聴き、すばらしい仕上がりにより皆さん感動されていた。

☆種を通じて人との交流が持てる（はじまる）良い企画であった。今後も続けていきたい。（徳田勇次）

生ごみ循環プロジェクト

9/13 御船町
地産地消型の基材を探求中！



熊本市主催のダンボールコンポスト講座の講師として活動しながら、現在は地産地消型の基材（コンポストに最初に入れておく素材。熊本市講座の場合はピートモスと燐炭）で良いものはないかと探しているところ。身近で手に入り、扱いやすく、低価格でコンポストの管理もしやすいものとして、今のところ「竹チップ」が最有力候補。9月13日には、竹を有効活用し循環させようという御船町の会社にメンバー5人で訪れました。

竹をめぐる地域の現状や活用の仕方などを聞き、こちらからは堆肥化されたものより発酵前の方が基材に適していることなどを伝え、今後に向けて大きく前進したように思います。もし興味のある方がいらっしゃったらお気軽にお問合せください！一緒に循環ライフを進めていきましょう！

菜の花プロジェクト 9/26 熊本市 養成塾集合セミナーにて

活動を始めてから数年たちますが、悩みもあります。メンバーが固定化し、なかなか新しい広がりが出てこないことです。そこで熊有研養成塾のセミナーで、就農を目指す若者たちに活動紹介をさせていただきました。「有機農業が資材やエネルギーの循環を大切にしながら営まれる、持続可能性に富んだ農業であること」を知ってもらおうという狙いです。

当日は竹熊先生ご夫妻と移住し就農したご夫婦も一般参加されました。山都町の野口さんは、有機農業と出合ったタンザニアでの緑化運動を紹介し、菜の花プロジェクトが広い意味で、生ごみや様々な山林バイオマスなど地域資源の循環的な活用と繋がることを説明。参加者からは、品種、搾油所、一度に必要な量など実践的な質問が出され、この中から栽培を始める人が出てくることを願っています。

秋も深まり菜種の播種の季節です。作付けに関する質問などある方はご連絡ください。菜の花は小麦や大豆と同じく戦略作物なので、水田二毛作の裏作としても有利ですよ。（間司）

部会活動報告

食農育部

5/26-27 宮崎県椎葉村
焼畑ミニツアー



食農育部企画で、片野先生のご尽力のもと、作物栽培の原点ともいえる焼畑農業を学ぶために椎葉村に出かけた。

行く道すがら、クリアーな気を放つ巨木に圧倒され、平家の伝説が残る名跡を回る。民宿「焼畑」に到着すると、焼畑の第一人者・椎葉クニ子さんが出迎えてくださった。88歳とは思えぬ元気にこれまた圧倒される。夕食には、四季折々の野草や保存食を使った伝統食をいただき、心もズッシリと満たされた。

翌日は、昨年40年ぶりに焼畑を実施したという畑に行き、森に火を放つ際に大切なことを学んだ。それは、森（そこに住む生き物も含め）との共存を考えること、そして、地力に合わせた作物を作ること。たとえばクニ子さんの場合、雑穀、豆類を輪作し、4年使った後は再び森に戻すそうである。燃やした灰や、大気の影響を、作物を通して森の大地に返すのだと。

実際に焼畑に居立って初めて得られる、大きな自然の懷に包まれた実感。それは森を失ってしまえば、二度と味わい得ない芳恩である。（市来眞）

今回報告は省かせていただきましたが、8/4には「米粉ピザ教室」も開催しました。

青年部

8/4 南阿蘇村
若けえもんの集いin熊本



今回は、南阿蘇でバイオダイナミック農法（以下、BD農法）を実践している「ぼっこわば耕文舎」を訪問して、自然

と農業の調和といった観点から有機農業の新たな可能性を学び、夜は、参加者の持ち寄った自慢の有機野菜とブランド豚をふんだんに使ったバーベキューで交流と親睦を図り、翌日は、事例を基に情報交換会を行う、というスケジュールで実施しました。

「ぼっこわば耕文舎」で迎えてくださったのは、日本におけるBD農法の先駆者、ドニー・ピリオさんと假野祥子（かのよしこ）さんのご夫妻、そしてスタッフの二宮義憲さん。「簡単に言う、宇宙からのエネルギー、つまり自然の力をより多く受け止める工夫の一つです」というのが、その特異な農法の基本姿勢のようです。

その後向かった宿泊地は地獄温泉旅館・清風荘。トレーラーハウスをほぼ貸し切り、バーベキューを楽しむ中で情報交換・交流ができました。

最後に、次回（来年）の開催を目標として、再会を一つの励みに九州山口それぞれの地で、各々が楽しく、時にこのネットワークを生かしながら頑張っていくことを皆で共有して、閉会しました。

（安藤光一）



◆4～9月活動報告◆

- 4/18(水) フェスタ第1回実行委員会
- 4/22(土) 九州有機農業世話人会
- 4/23(月) 養成塾応募者説明会
- 4/27(金) 有機JAS講習会(山都町)
- 5/6(日) 第3回判定委員会
- 5/14(月) 審査員研修会
- 5/16(水) フェスタ第2回実行委員会
- 5/31(木) 養成塾開始式
- 6/7-8 農水省認定機関連絡会議(神戸)
- 6/8(金) 有機JAS認定機関協議会総会(神戸)
- 6/13(水) 有機JAS講習会(御船町)
- 6/17(日) 第4回判定委員会
- 6/27(水) 養成塾集合セミナー
- 6/28(木) 養成塾二次募集研修生開始式
- 7/5(木) フェスタ第3回実行委員会
- 7/9(月) 審査員研修会
- 7/25(水) 養成塾集合セミナー
- 7/28(土) 第3回理事会
- 8/4-5 若えものの集いin熊本
- 8/5(日) 第5回判定委員会
- 8/22(水) 養成塾集合セミナー
フェスタ第4回実行委員会
- 8/25(土) くまもと有機農業推進ネットワーク総会
- 8/26(日) 九州有機農業世話人会
- 8/26-27 種苗交換会・学習会
- 8/30(木) 有機JAS講習会(宇城市)
- 9/22(土) 第6回判定委員会
- 9/23(日) 第4回理事会・理事研修

○●今後の予定●○

- 10/13(土) フェスタ出展者説明会、第5回実行委員会
- 10/18(木) 有機JAS講習会(熊本市)
- 10/28(日) 第7回判定委員会
- 11/18(日) ゆうきフェスタ2012(合志市)
- 11/29-30 農水省検査員研修会(熊本市)
- 12/2(日) 第5回理事会
- 12/5(水) 審査員研修会
- 12/9(日) 第8回判定委員会

ゆうきフェスタ2012

11月18日(日)熊本県農業公園カントリーパークにて開催!

ゆうきフェスタも今年で13回目! 今回のテーマは、「熊本の誇り、未来に種まく有機農業」です。熊本は有機農業の先進地であるという原点を見つめ直し、今、そして未来に向けてこの地で何ができるだろうか?いのちあふれる現場から、多くの生産者・販売者などが集います。

野菜ソムリエと生産者が有機野菜の使い方を伝授する「キッチンスタジオ」、被災地のためにできることを考える「リレートーク&ソングス」、映画「ミツバチからのメッセージ」の上映や、就農相談コーナーなど、今年も盛りだくさんの内容です。

フェスタについて詳細は、チラシや熊有研HPでご案内しています。

みなさんのお越しを心からお待ちしております!



今年度の養成塾も研修実施中です!
今年度の養成塾は、6月から1年間の研修をスタートしました。現在4名の研修生が受入農家で毎日元気に農業研修に励んでいます。また月1回の集合研修では午前中を公開講座としていますので、希望者の方と一緒に土作り・作物生理の基礎や有機農業・有機農産物加工、農業経営や循環型農業等について学びたいです。午後は農大特別ゼミナールの聴講生として、病虫害や農地制度、就農支援など幅広い内容を受講しています。
研修生は、4人の内3人が県外出身者で「いろいろな所へ行ってみたが熊本が一番気に入った」と話しています。

▼実りの秋!身近な実りとして、来月は友人の結婚式があり、昨日別の友人の第2子誕生を聞き、複雑な心境の今日この頃です。畑を占拠する落ち種ササゲを心の師に、フアイトだ私!(松本)
▼遺伝子組換えについては心配な点が多々ありますが、「選択の自由がない」という状態は一番避けたいと思います。有機JASだけが原料まで遺伝子組換え禁止になっていること、改めて見直すきっかけになりました(出田)

広報部 編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

今年度から始まった青年就農給付金には、研修生対象の「準備型」と就農を開始している人を対象とした「経営開始型」の2種類があります。準備型を申請するには、認定研修機関で研修を受け、就農予定時年齢が45歳未満であり、農業経営者となることに強い意欲があること、独立就農や雇用就農を目指すこと、経営計画が基準を達していることなどが条件です(熊有研は、準備型の研修機関として県に認定されています)。
ただし、研修終了後1年以内に就農しない場合は返還しなければならぬ義務もあります。

青年就農給付金について

※チケット利用可能店※(順不同、10月現在)

- *エヴァダイニング(福岡市)
- *レストラン大河(益城町)
- *泉力の湯(西原村)
- *カフェテラス野の花(黒髪)
- *プライベートロッジ(並木坂)
- *土に命と愛ありてティア(本山町)
- *ピストロシェルコパン(山鹿市)
- *ちゃぶ台(玉名市)
- *風流(西原村)
- *キッチン太郎(子飼)
- *ピオサルーテ(駕町通)
- *オルモ・コッピア(阿蘇市)

※前回のこたえは「えんどう」でした。

※種*花クイズ 応募方法※

表紙のクイズの答え・住所・指名・電話番号・ゆうきのご感想をお書き添えの上、郵送かFAXまたはメールにて、下記宛先までご応募ください。

●問合せ・応募先

〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13
FAX:096-223-6772 MAIL:info@kumayuken.org
熊有研広報部 種花クイズプレゼント係 宛